

理想都市



□ショーランドの計画案
1773~1779
Claude Nicolas Ledoux(仏)
1736~1806

1773~1779年のショーランドの製塩工場の設計を中心とした理想都市像を描いた。



□ファミリストール
19世紀
André Godin(仏)
1817-1888

ジャン・バティスト・アンドレ・ゴダン(1817-1888)が試みた社会主義的ユートピアである。



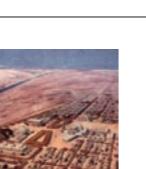
□大都市
1898
Otto Wagner(奥)
1841~1918

晩年の論考「大都市」に記載されていた理想都市。



□田園都市
1898
Ebenezer Howard(英)
1850~1928

都市の社会・経済的利点と、農村の優れた生活環境を结合した第三の生活を生み出す。1903年にレッチワースに実現。



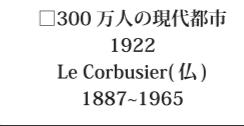
□工業都市
1917(1901~1904構想)
Tony Garnier(仏)

1903年にレッチワースに実現。



□新都市
1914
Antonio Sant'Elia(伊)

1903年にレッチワースに実現。



□300万人の現代都市
1922
Le Corbusier(仏)
1887~1965

□パリのヴォアザン計画
1925
Le Corbusier(仏)

□輝く都市
1930
Le Corbusier(仏)



□ブロードエーカーシティ
1934~
Frank Lloyd Wright(米)
1867~1959

都市の集中を避け、その機能を田園に融合させ、台地に密着して生活する。

工業都市

□労働
1901

ファミリストールを元に、理想都市クルーシェルが書かれている。そして、工業都市はこの小節『労働』を視覚化したものとも言われている。

□Tony Garnier(仏)
1869~1948

1890年からエコール・デ・ボザールに年齢制限の10年間在籍する。時代背景から彼の建築思想は社会主義的な方向へ向かう。30歳の時に国立銀行の課題設計でローマ賞を受賞。イタリア・ローマ留学の権利を得る。ローマで5年を過ごすが、当時のイタリアは未来派が台頭していく、ボザールが求めていた課題を行なう、「工業都市」の構想を練る。1901年から4年にかけてボザールに送りつけられで話題になる。コンクリート構造の諸施設が並んだプランを最初に評価したのはル・コルビュジエで、1907年にはガルニエのもとを訪れる。またエスプリ・ヌーボー誌などでも紹介され、オーギュスト・ペレと共に鉄筋コンクリートの父とも呼ばれている。

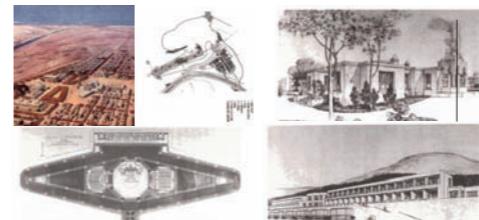


□Émile François Zola(仏)
1840~1902

フランスを代表する小説家であり、『労働』において理想都市クルーシェルを書いた。

□École des Beaux-Arts(仏)

19世紀パリに設立されたフランスの美術学校。350年間以上にわたる歴史があり、建築、絵画、彫刻の分野に芸術家を多く輩出してきた。現在は建築がここから切り離されている。



□工業都市
1917(1901~1904構想)

ガルニエが48歳の時、著書『工業都市』を出版した。敷地は架空の場所であり、人口は35000人を想定している。これはこの時代における、パリの平均人口を参考にしていると言っている。164点の図面やドローイングが描かれ、ガルニエは一つの都市をまるまる描き出した。その都市は、彩色された鳥瞰図やドローイング、パースペクティブな建築物などの絵が描かれ、非常に繊細に細かく都市の細部まで描かれている。

主要構成は市街地、工場地区、保護衛生地区の3つである。これは後のCIAMでも参考にしたと言われている。都市間を結ぶ高速道路やインターチェンジで交差する幹線道路、鉄道からなる交通インフラストラクチャーのサーキュレーションシステム、沿岸に設けられた港湾施設、近代都市が備える全ての施設と空間を構成要素として、それぞれの機能と環境を考慮して配置している。他の理想都市に比べても格段にリアルに構想されていることが特徴的である。

□Le Corbusier(瑞)
1887~1965

『工業都市』を評価した最初の人物。後のCIAMでも工業都市を参考にしたと言われている。1907年にはガルニエのものと訪れていた。

好戦的であった未来派は、戦争により、二人の主要人物を失い序所にその力を弱めていく。

未来派



□Filippo Tommaso Marinetti(伊)
1876~1944

未来派の創設者。詩人であるマリネットティは1909年にフィガロ紙上で「未来派宣言」を発表した。その主張に賛同する芸術家達の運動がイタリアを中心に展開していく。彼は同文書において、このような運動を、工業化、都市化の進展、伝統の集積によって閉塞したイタリアの状況を打破するものとして積極的に評価した。特に自動車などの機械に固有の「速度」から生じる近代的な美学を全面に打ち出していた。



□Antonio Sant'Elia(伊)
1888~1916

1914年末にサンテリアが加わり、マリネットティとともに未来派建築宣言がなされた。サンテリアはマリネットティの手直しに不満を抱いていたし、両者のビジョンは必ずしも一致しているわけではない。しかし、爆発的に躍進する工業都市、ミラノの時代背景が生み出したことで両者は変わりない。サンテリアが未来派に加わった二年後、サンテリアは皮肉にも戦死してしまう。けれどもその思想はいまだに関心をもち込まれ続け、パンハムやヴィリリオにも影響を与えていた。

□未来派
1909

19c-20c初頭は新しいテクノロジーが発達した時期にマリネットティによって1909年「未来派宣言」がなされる。そもそも未来派とは、過去も芸術の徹底破壊と機械化によって実現された近代社会の速さを称めるもので、20世紀初頭にイタリアを中心として起こった前衛芸術運動である。この運動は、文学、美術、建築、音楽と広域な分野で展開された。またイタリア・ファシズムにも受け入れられ、未来派は、戦争を「世界の中を衛生的にする唯一の方法」として賛美した。

サンテリアが参加した「新傾向」にてマリネットティに未来派への参加を提案される

□新傾向グループ第一回美術展
1914(5/20-6/10)

サンテリアの「新都市」の計画を展示了した美術展。カタログの序文はサンテリアとマリオ・キアットーネにより書かれた。

□建築未来派宣言
1914

1914年サンテリアの『新都市』の計画を展示了した「新傾向グループ第一回美術展」(5月20-6月10日)にて、カタログに載せるために書かれた序文でマリネットティが大幅に加筆や修正を加え、フィレンツエの未来派機関誌『ラテルバ』に発表されたのが「未来派建築宣言」となる。これは過去の様式に対する宣戦布告であり、「オーストリア、ハンガリー、ドイツ、アメリカのアヴァンギャルドな偽建築のすべて」を敵とみなした。彼らは新しいテクノロジーへの信仰を最大限にあらわにし、「速度」という新しい宗教(マリネットティ, 1916)を掲げた。この宣言により、絵画、音楽、文学などの各宣言を経て、芸術の分野がほぼそろった。



□新都市(伊)
1914

都市の主要な構成要素に駅舎、発電所、自動車道路エレベーターといった先端的なテクノロジーの生み出すダイナミックな「速度」を導入し、一つの機械都市、とも呼べるイメージを定義した。巨大な規模で展開するビル群や発電所などが新都市の象徴として配置され、それを支える下部構造として線路、エレベーター、空中歩道などが採用されている。スケッチを見る限りにおいて、それはヒューマンスケールを超えた土木のスケールを持ち、威圧的であり、発電所やダム、軍艦を彷彿させ、至る所に屹立する砲塔や塔がデザインされている。